

6-1 面影橋エリア

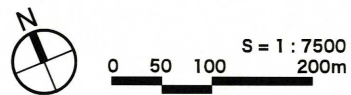
神田川沿いの低地に位置するエリアです。江戸時代には面影橋周辺は、歌川広重の「名所江戸百景」にも描かれるほど、風光明媚な田園風景が広がっていました。現在は、神田川沿いの桜並木と区内唯一の都電が通る場所であり、潤いと動きのある景観が特徴となっています。



景観特性



● 眺望点	●●● 連続するみどり	● 景観上重要な交差点
→ 視線方向・重要な軸線	■ まとまったみどり	■ 大規模な敷地
■ 公園	■ 景観上重要な道路	■ 高層建築物
● 保護樹木	■ 幹線道路	■ エリア境界



1. 都電と神田川を望む魅力的な景観



面影橋からは、神田川の流れと桜並木を眺めつつ、都電の走る様子を見ることができます。また、高戸橋交差点付近からは、奥にサンシャイン60、手前に走る都電を眺めることができます。

2. 神田川の桜並木



神田川はコンクリート三面張りの巨大なU字溝ではありますが、川面にあふれ出す桜並木が見事な景観を形成しています。また、遊歩道にはみどりが連続しており、心地よい歩行者空間となっています。

3. 神田川と並走する新目白通り



神田川は緩やかに曲がりながら流れている一方、目白通りは直線的に通っています。そのため、両者が接しているのは面影橋付近のみであり、その他の場所では新目白通り沿道の高層建築物で隔てられています。

景観形成の目標

都電と神田川をいかした潤いと動きのあるまちなみへ

歌川広重の「名所江戸百景」にも描かれた神田川と区内唯一の都電の走る景観の、潤いと動きを感じられるまちなみをつくる。

景観形成の方針

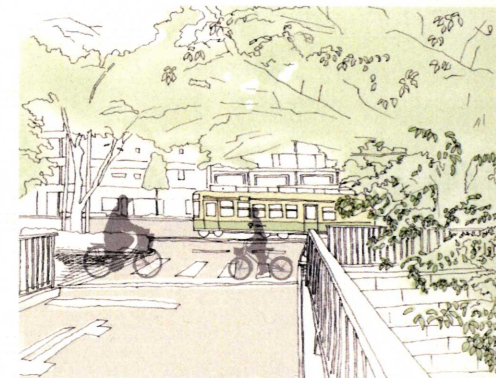
1. 走る都電、流れる神田川を感じられる動きのある景観をつくる

景観形成の考え方

新宿区内では唯一の、都電が走る風景をエリアの景観資源としていかす。また、神田川の流れの様子も容易に眺められるようにする。

具体的な方策

- 都電の眺めを阻害するような工作物等は設置しないようにする
- 遊歩道の垣・さくは、高さを抑えるか、開放的なものとする
- 遊歩道や橋の整備にあたっては、神田川を眺めるたまり空間の設置等を検討する



都電や神田川への眺めを妨げない

2. ゆとりと潤いのある河川景観をつくる

景観形成の考え方

遊歩道が整備されているこのエリアでは、遊歩道と周辺の建築物が一体となってゆとりと潤いのある河川景観をつくる。

具体的な方策

- 橋や対岸からの見え方に配慮し、特に桜並木の上から見える部分の色彩は低彩度のものとする
- 色彩や素材は、水やみどりと調和したものとし、特に彩度の高いものは避ける
- 直接遊歩道に接する場所では、設備機器等は見えないう植栽等で修景する
- 遊歩道側は可能な限り空地をとり、積極的に緑化を行う
- 遊歩道の垣・さくは神田川への眺めに配慮した色彩や素材とする（素材は、自然素材を用いるなど）



周辺と一体となってつくられる河川景観

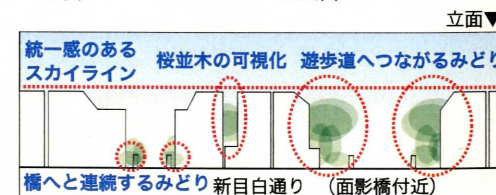
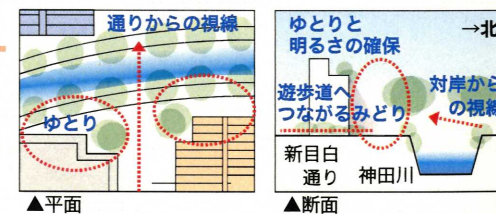
3. 神田川のみどりと調和した景観をつくる

景観形成の考え方

新目白通り沿いにおいて、神田川のみどりと調和し、また、神田川を感じられる景観をつくる。

具体的な方策

- 新目白通りから神田川を眺めることができるような建物配置とする
- 色彩や素材は神田川のみどりと調和した落ち着いたものとし、特に、彩度の高いものは避ける
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 特に面影橋周辺では、神田川のみどりと連続した緑化を積極的に行う



神田川と調和した建築物とみどり

6-2 早稲田大学周辺エリア

明治15（1882）年に東京専門学校として創設された早稲田大学とともに、その周辺も発展してきました。大正5年発足の早稲田商店会をはじめ周囲には7商店会があり、活気にあふれています。また、昭和2（1927）年落成した「早稲田大学大隈記念講堂」は、大学だけでなく周辺地域のシンボルとなっています。



景観特性



1. 大学とともに歩んできた商店会



大学の周辺には7つの商店会があり、大学の発展とともに商店会も発展してきました。学生街の賑わいを、今後もより一層強化していく必要があります。

2. 早稲田大学の景観



その広大な敷地により、大学自体が周囲の商店会とともに一つのまちとなっています。周辺地域との調和を図るために、その敷地際での地域に対する配慮が必要です。

3. 地域のシンボルである大隈講堂



大隈講堂は、大学だけでなく地域のシンボルとなっています。温かみのある茶系を基調とした色彩や、建物高さや周囲との緑地の関係等により、圧迫感を与えることなく風格ある建築物となっています。国の重要文化財です。

景観形成の目標

早稲田大学と周辺商店会で作る活気あふれるまちなみへ

早稲田大学と周辺商店会がともに発展しつづられた活気あふれるまちなみをさらに発展させるとともに、大隈講堂や大隈庭園からの眺めを保全する。

景観形成の方針

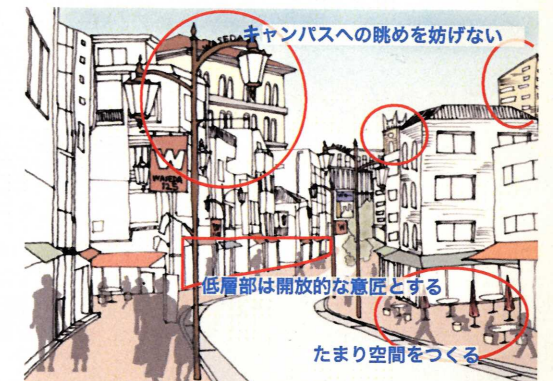
1. 早稲田大学と周辺商店会が一体となった学生街の景観をつくる

景観形成の考え方

早稲田大学の拡大とともに発展してきた周辺商店会と大学が一体となった賑わいあふれる景観をつくる。

具体的な方策

- 壁面の位置を揃え、周囲と調和を図る
- 早稲田通り沿いや大隈通り沿いでは、間口は現在の規模を継承するか、もしくは、分節化を図る
- 低層部は賑わいを感じられるような開放的な意匠とする
- 夜間景観に配慮した照明計画とする



早稲田大学と周辺商店会が一体となった景観

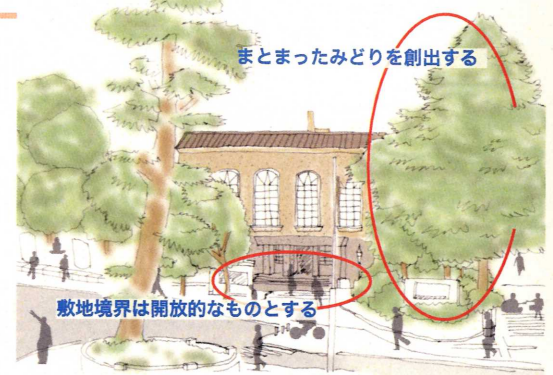
2. 早稲田大学がまちに溶け込んだ景観をつくる

景観形成の考え方

大学と地域とを隔てる塀を開放的なものにし、大学の持つ活気あふれる景観を地域に溶け込ませていく。

具体的な方策

- 敷地境界の垣・さくは、高さを抑え、開放的なものとする
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する（壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図る など）
- 敷地境界部においては、生垣などにより積極的に緑化を行う



早稲田大学がまちに溶け込んだ景観

3. 大隈講堂を中心とした落ち着いた景観をつくる

景観形成の考え方

エリアのシンボルとなる大隈講堂の眺めを保全するとともに、周囲も一体となった落ち着いた景観をつくる。

具体的な方策

- 大隈講堂への眺めや大隈庭園からの眺めに配慮した、落ち着いた形態意匠および色彩とする
- 大隈庭園のみどりを保全する
- 大隈庭園周辺では、積極的に緑化する
- 大隈講堂への眺めを阻害する場所については、屋上広告物は設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する



シンボルとなる大隈講堂を中心とした落ち着いた景観

